

SpectraDAQ-200 スタンドアロン取扱説明

使用手順:

1. SpectraDAQ-200 を USB(3.0 推奨)ポートに接続します。拡張 HUB への接続は回避下さい。
2. ドライバーをインストールします。
 - SpectraDAQ-200_DriverSetup.exe
3. ドライバーインストール完了後、Windows コントロールパネルには「XMOS USB Audio」という名前で認識されます。使用するアプリケーションではこれを選択します。



デバイスコントローラアプリの設定と起動:

アプリ設定ファイル「SpectraDAQStandaloneDeviceController.zip」を展開/解凍します。
展開後に生成される「SpectraDAQStandaloneDeviceController」フォルダを開きます。
「DAQDeviceControl.exe」をクリックしてアプリを起動します(前図参)。

Input Range:

DAQ の入力ゲインを制御します。設定は両チャンネルに適応されます。レンジ値は最大入力レベルを表します。

入力レンジを 156mVolts にセットすると、約1 μ Volts が限界値となります。

IEPE Power:

IEPE パワー(24 Volts DC/4 mA)をチャンネル毎に供給します。

Sampling Rates / Bit Rates:

48000 / 96000 / 192000 (Hz)

24 / 16 Bits

コネクタ:

フロントサイド: BNC Input Lch/Rch、BNC Output Lch

リアサイド: 3.5mm ジャック Lch/Rch Analog Output

リアサイド: RJ45 COM API コントロール(SpectraPLUS 用途)

備考:

設定値はデバイスの USB 接続を切断あるいは、PC からの電源供給を終了しない限り維持されます。

また、当該アプリ「DAQDeviceControl.exe」は終了時に最後の設定値を自動保存します。従って、デバイスの再接続時に保存値が SpectraDAQ-200 に反映されます。

- 完 -